

砂場でも、まゝのごとでも、後片づけは中々出来にくいものである。がしかし、之れも、習慣で出来る。たゞ、誰れだつて、後片づけが好きといふ譯もあるまいし、幼児にして、出しっぱなしがそう／＼氣にかゝるといふのも、かゝんが強過ぎたりする。何んだか、年寄り臭かつたりもする。そこで、こゝにいふ、謂はゞ幼児としてつい忘れるのか一應無理もないことの訓練は、先生がいっしょにしてやるのだが、時々必要であらう。

但、先生の手傳が過ぎると、先生にさせて仕舞つたり、先生がしなければいけないといふ風になつたり、そこは中々の加減がいり、こつが在る。手傳ふと見せて、幼児を引込んで置いて、後は餘り手を出さぬといつたところが定石でもあらう。

が、それより大切にして、有效なことは、先生が先生の領域に於て、片づけをよくして置くことである。幼児には、さあ／＼お片づけと小やかましくいひながら、先生の机の上はくちや／＼のごちや／＼では、「でも先生のは」と幼児だからこそ言はないだけのことである。少くも、その反對のどんなに有效なかは、最も明かなことである。一體全體、清潔とか整頓とか位、先生の風が幼児にうつることの多いことはない。組の風が、ちやんと分れる位である。ちらかし先生の組は、ちらかし子。出しっぱなし先生の組は、出しっぱなし子。餘りのてきめん、恐ろしい位である。

品物を大切に取扱ふ習慣も、前述二項と性質に於て同じ生活訓練である。ぞんざい。なげやり。一寸物を置くにも、ほうり出す

のもあれば、そつと置くのもあり、何も、お姫さまのやうにといふ譯でもないが、之れも習慣で出来る。一體、あんまり亂暴な扱ひ方をする子は、性格のどこかに問題があつたりする。普通の子なら、之れも、親ゆすりか、先生ゆすりで、どうともなるのである。

生活訓練の基礎は先づ先生の生活訓練である。

自由遊戯

上遠 文子

六月と申しますと雨の多い月でございますので私達は自然と室内での遊戯材料を澤山提供しなければならぬわけでございます。お天氣のよろしい日はそろ／＼暑い頃でありますから、戸外と室内でのご分けて考へてみる事に致しませう。

戸外遊戯

笹舟遊び、水遊び 夏も近づいた今日此頃は、やはりお子さん達も水がこひしくなり、お池のそば、川のそば等に自然と集つてしまひます。笹舟、昔からの作り方で御存知でございますが、片方又は両方を折曲げその輪の所を三等分に縦に切込を入れる。次に兩端二つの切込みを組合せ搜込んで、出来上りであります。片方だけだといかだの様、兩方だと荷物船の様で、仲々よく走ります。笹が手近に得られない時は、古葉書又は、紙屑で充分上等な舟が出来上ります。

(古葉書利用の舟は昭和十四年夏講習にて及川先生より御指導受けしもの)

或時お子さんが腐つた様な木の切とこれも又あまり綺麗でない割箸位の棒とを持つて来て、この木へこの棒を立て、來れと頼んだので立て、あげるとその棒の先に日の丸の旗を立て、お池に浮かしてゐました。成程、潜行艇の様に水の下をもぐつて走つたり、すゝつと仲々よく走つてゐます。又田舎で子供達がこれと同じ様だがたゞ棒の所に紙の帆をかけて走らしてゐました。これも又とてもよく走り氣持が好い。立派な型、立派な色彩でなくとも子供達は自然の、しかも自分達の手で作つたものは、何にかかへ難い玩具なのであります。それ故私達はその子供さん達の工夫を助け、指導し、より以上お子さん達の生活を豊にしてあげたいものであります。言ふまでもなく、水遊びに夢中のお子さん達に過失のない様特に注意せねばなりません。

兎と龜の競走 先月のリレー遊びをちよつと嗜好を變へてみました。兎になる組又は人は、兩足をそろへ一足飛びにびよんと飛びます。手は胸の所でも又上で耳の様にしてもそれは隨意です。龜は、腹はびになり、四つ肢ではふ様に走ります。何れも相當體力を要するものですので長い距離は無理でせう。リレーにしても又七八人各自好きなものになり競走しても面白く遊べます。その他、飛行機になつてもよろし、蝶々でも、種々立案し、自由表現競走として遊ぶのも變つた嗜好であります。

室内遊び

毬かくし 團體でも又個人々々でも遊べる遊戯です。かくすものは毬でなくとも何でもよろしい。鬼を一人きめ、鬼になつた人は、目をつむるか、部屋の外に出てゐる。その間に毬を、誰かの掌の中とか、ポケット、椅子の下、又はお部屋の中の何處でもよい適當な所にかくしてしまひます。かくしたはつたら鬼を呼んで、さがしてもらふのでありますがその時は、皆で手を打つか或はピヤノで、そのかくしてある場所近くへ來た時は、大きい音とか又は早いテンポ。遠ざかつた時は小さい音、又は遅いテンポにしますから、鬼はピヤノをよく聞いて、その邊をさがすのであります。その時注意する事は、音の聞分の練習にもなりますから、ピヤノを弾く人は高低連速を明瞭に致したいものであります。

寶さがし 前の毬かくしと似た遊びであります。圓くなり、鬼は真中にて、やはりかくすものを決めるが、これは手の中にかくすので、かくれる小さいものがよろしいとおもひます。始めに鬼によくそれをみせておき、ピヤノがはじまると、そのリズムにあはせ、その品物が廻つて來なくとも來ても、みんなが同じ様に左手は上向にして動かさず、右手だけ終始動かしてゐるので、動かしながら、鬼に解らぬやうにお隣りの上手にまはすのであります。ピヤノは適當の時やめます。と同時に皆持つてゐなくとも、持つてゐても、全部兩手を握つてこぶしを作つてゐます。鬼はその品物の行方を大體目ぼしをつけておきあてゐるわけでありす。上手になると仲々わからず、鬼も時々降参してしまふ事があります。目ぼしは大體つけてあつても、次々と數に制限なくあて、ゆくの

は面白くありませんから、幾つまであつて事が出来るかを決めておいた方がよろしいでせう。

同じやり方で唯まはす時に両手で次の人の手の中へ落す様に、わたす方法もあります。

又雷遊びと云つてピアノの代り、鬼は圓の中で目をつむり、ころ／＼／＼／＼／＼と云つてゐて、適當な時にどつしやんと雷を落すと、その時みんなは、持つ人も持たぬ人も一齊に手を握つてしまふ。ころ／＼／＼の間中ぐる／＼／＼まはし、落ちた時にもつてゐた人が持つわけで鬼はその人をさがし出すのです。

椅子とり 誰でもよく知つてゐて何處でも歓迎される遊びであります。先づ椅子なり、座蒲團なりをやる人数よりも一つ又は二つ、三つ少い数だけ用意し、椅子の場合、外向にまゝ置く。場所の廣い場合は中に椅子をばら／＼において、そのまはりを廻るのもよろしいとおもひます。マーチ、歌等勇しい曲にあはせて歩いたり、スキップ又は自由表現を用ひても面白いでせう。その椅子のまはりなぐる／＼あるいて居て、そのうちピアノがやんだら、何處でもよいから椅子に腰かけるのであります。人数より少く椅子の数があつてから、自然とかげら、抱ない人が出来るわけです。その人は真中へ入つてしゃがんでゐる。椅子を又少くしてさんざん續けてゆくのでありますが、年少組等は中へ入るのを嫌がりまゝから、そのまゝ、その人も入つて續けて行つてもよいと思ひます。年長組では次第に人数が少くなる所で又面白

味が増すことであります。

かうした場合、時々一つの椅子に二人かけてしまひ、ともすると言ひ合ひになり易いものです。それはぢやんけんできめ、おたやかに解決つきたいものであります。

ハンケチ落し 今度はその椅子なぐるりとひつくり返してみませう。皆圓の中心にむかつたわけです。

一人の人がハンケチをもつて、マーチ、レコード等にあはせて皆の後をまはつて歩き、誰でもよいから、椅子の後へそつと落してゆきます。皆は鬼が自分の後におとした事を早くささる様になります。氣が付いた人はそのハンケチをもつて他の人の所へ落しにゆきます。鬼が一まはりしてその人の所へ来るまで氣の付かぬ人は鬼に背をぼんどたゝかれます。たゝかれた人は駄目なわけですから見てゐます。あまり氣にして何時も／＼後ばかりむいてゐてもつまりませんから手拍手でも取りつゝ鬼の行動をみまもつてゐる様に致します。

誰が始めたのでせう？ この遊びは年少組に少しむづかしい遊びであります。年長組でもどうかするとその面白味が理解出来ず却つてつまらなくなる事もございしますから説明は細くした方がよいと思ひます。

やはり圓を作つております。鬼を一人決め、その人は部屋の外に出てゐるか又は呼ばれるまで圓をかくしております。その中に鬼に解らぬ様に發起人どでも、申しませうか、動作、どんな事をしてもよろしい、(例へば手を振る、手を打つ、お頭てん／＼等)

をはじめる人をきめます。その人は次々と新しいのを考へて動作をすると皆はその人の眞似をするのです。ところがその眞似をする時、鬼は誰が一番はじめに始めてゐるでせうとさがすのですから、その人の方をみない様に又新しく變つた時はなるべく早くさつて變へる様にするので、仲々鬼がわからないで面白いわけです。

こゝは何處の(どなたの)細道ぢや あまり今頃はみない遊びですが、昔しのぶ、ゆかしい遊びの一つでありませう。

○こゝは何處の細道ぢや

× 天神様の細道ぢや

○ちよつと通して下さんせ

× 御用のないもの通しません

○この子の七つの御祝ひにお札をおさめに参ります

× 通りやんせ〜 行きは好い〜

歸りはこわい。こわい

ながらも通りやんせ〜。

天神様の細道を作る人二人、お母さんと七つの子になる人。これは二人づゝ、幾組もあつてよろしいわけです。

○は親子が言ふ言葉で×は細道を作る人が言ふ言葉です。行く時はすーつと通しますが今度歸りは、用心して、通らぬと、細道をつくる人はその人をぶちます。ぶたれぬ様、すきをねらつて通るわけなのです。ぶつと言ふ事はあまりよくありませんから、細道を作る人はトンネルを作つてそこをおとして圍む様にした方がよいのではないかしらと思ひます。

遊 戯

古澤 静子

身心共に高い空に向つてぐいぐい伸びて行きます。子供等の愉快な歌聲は、園庭に遊戯室に生氣に満ちた響きをもたらします。

季節のリズムにのつて、もう六月が訪れて参りました。その中にあつて幼児の全生活は或一定のリズムにのつて形作られ、又このリズムに支配されて發育いたします。殊に彼等の身體運動の一つ、或は口づさむ歌曲の一つに、大切なリズムのある事は忘れられません。子供の歌は、専門的技巧はなくとも、常に正しいリズムと正確な音程によるものでなければならぬ。とは、今更申すまでもない事でありませう。

次におげます「みちぶしん」「ギョウシンバツタン」「オフネ」「水あそび」等、何れも四拍子、二拍子の活動的な遊戯に於きまして、潑刺とした手足の動きは更に、正しいリズムと音程を持つた歌曲と渾然一體となつた時、一層快感を味はひ得るものと思ひます。

「貝拾ひ」 最新作曲幼稚園唱歌集所載

干潮に乗じて熊手やシヤベルで貝堀りをする事は、都會の子供にはあまり關係のない事でありませうが、それだけに却つて興味ある事でありませうし、海邊の子供達には、楽しい行事の一つに數へる事が出来ませう。

全生、波と子供に分れます。